

平成29年4月10日

平成28年度 地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部
氏 名 大河内 朋子

活動テーマ	留学生による「一日高校生」活動
実施期間	平成29年1月25日 ～ 平成29年1月25日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>人文学部に在籍する留学生15名が、三重県立四日市高校および上野高校の第1学年に一日だけ「編入学」して、日本の高校生の学校生活を体験するとともに、高校生に対しては異文化間交流の機会を提供した。参加留学生の国籍別内訳は、中国7名、台湾3名、タイ2名、ドイツ2名、ベトナム1名（計15名）であった。</p> <p>各校でのスケジュールは、次のとおりであった。</p> <p>【四日市高校 1年生 8クラス】 8時35分～14時15分 授業体験（1～4限、数学・音楽・家庭など） 14時25分～16時5分 LHR（生徒との交流） 16時10分～17時 クラブ活動の見学</p> <p>【上野高校 1年生 7クラス】 8時45分～14時10分 授業体験（1～4限、英語・数学・書道など） 14時20分～15時10分 講演会「伊賀を知ろう」参加 15時20分～16時10分 LHR（フリスビー・ドッチ大会） 16時30分～17時30分 クラブ活動の見学</p> <p>留学生へのアンケートからは、主として以下のような感想が聞かれた。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校の設備がよくて、生徒たちも熱心に話してくれて、とても楽しかった。・制服を体験したかった。・クラブ活動の時間がもっとほしかった。・8時から18時までずっと学校にいるのがたいへんと思います。 <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>SGH選定校である四日市高校は、主としてアジア諸国との交流実績に富んでいて、生徒にも英語での国際交流の機会がある程度保証されている。しかし交流の頻度をさらに増やして、「空白期間」を短くすることが、生徒の国際感覚を涵養するために効果的であることは言うまでもない。また、四日市高校は実践的英語力の養成にも重点を置いており、今回多くの留学生が参加したことで、英語でのコミュニケーション機会も提供できた。この意味で、本活動は四日市高校の教育（とくに英語教育）にとって意味あるものになった。</p> <p>他方、上野高校の生徒は国際的な交流機会に恵まれているとは言えないので、2年前から継続している本活動に対する高校側の期待は小さくないと言える。今回の訪問時にも、生徒たちが積極的に留学生とのコンタクトを求めてきて、きわめて友好的な雰囲気の中で交流が展開された。上野高校は、本活動を必ずしも英語教育の一環と位置づけてはいなかったため、留学生にとっては日本語の実践的使</p>

用の機会となり、留学生からの評価も高かった。

(3) 共同実施者との連携状況

両校においては、すでに昨年度に同様の企画を実施しているため、校長・教頭とも面識があり、高校側においても本企画の意図等はすでに十分に理解されていた。従って、今年度は主としてメールで打ち合わせを行った。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

留学生にとっては、日本の高校生活や高校教育の一端を実体験することにより、大学外の日本社会を理解するための得がたい機会となった。また、日本語でのコミュニケーション能力や学問言語の理解力(授業・講義の理解力)を試す場ともなり、言語能力を鍛錬するという面でも有意義であった。

(5) イベント等開催実績(名称, 実施場所, 参加人数等)

- A. 「一日高校生」1月25日(水)実施、三重県立四日市高校1年生8クラス、参加留学生8名(中国4名、台湾1名、ベトナム1名、タイ1名、ドイツ1名)、引率教員1名
- B. 「一日高校生」1月25日(水)実施、三重県立上野高校1年生7クラス、参加留学生7名(中国3名、台湾2名、タイ1名、ドイツ1名)、引率教員1名

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

※継続4年目以降(認定)の活動については、これまでの継続した取組みによって得られた具体的な成果について記述願います。